

平成30年第2回町議会定例会

# 町長行政報告

川 本 町

## ■行政報告の主な内容（29項目）■

### 特色を活かした活力あふれる産業のまち

- ・ 米の生産振興 4
- ・ 新規担い手の確保 5
- ・ 畜産振興 5
- ・ エゴマの生産振興 6
- ・ 6次産業化 6
- ・ 観光振興 7
- ・ 商工業振興 8

### 便利で快適に暮らせる基盤が整うまち

- ・ 定住促進住宅整備 8
- ・ 道路整備 9
- ・ 簡易水道 10
- ・ 水防災・治水対策 10

### 安心して暮らしやすい生活環境のまち

- ・ まげなねっとかわもと 11
- ・ ごみの処理 11
- ・ 防災 11
- ・ 地すべり対策 12

## みんなが健康で安心にいきいきと暮らせるまち

- ・ 地域包括ケアシステムの推進 13
- ・ 介護保険 13
- ・ 国民健康保険 14

## 夢や希望をはぐくむ教育・文化のまち

- ・ 学校教育 14
- ・ 社会教育 15
- ・ 文化振興 16

## 人と人が支え合う協働のまち

- ・ 島根中央高校魅力化 17
- ・ 島根中央高校支援 17
- ・ 弓市地区魅力化検討委員会 18
- ・ テレワーク 18
- ・ 都市交流 19
- ・ ふるさと納税 19
- ・ 窓口おもてなし 20
- ・ 公聴・広報 20

平成30年第2回町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜り誠にありがとうございます。

町内の田植えもほぼ終わり、一年で一番美しい田園風景になっています。これから一月あまり梅雨となりますが、4月に発生した地震の影響で地盤が緩んでおり土砂災害を心配しています。災害時の初動態勢はもとより、関係機関との連携、調整などしっかりと整え、気を緩めることなく対応してまいります。

現在、本町では久座仁と日向の2カ所で土砂崩れにより片側交互通行の規制となっており、一日も早い完全復旧を県にお願いしているところでございます。

本日は、飯田議長・片岡副議長をはじめとする新しい議会構成となって初めての定例会であります。議員各位の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

さて、邑智郡総合事務組合への電気料の請求事案につきましては、オール川本で地方創生を進める最中であって、川本町のイメージダウンとなり多くの町民の皆様にご心配ご迷惑をおかけしていますことを深くお詫び申し上げます。

今後は、町政の信頼回復を図るため、また再発防止のためにも有耶無耶にすることなく、内部調査と並行して利害関係のない第三者によって構成する調査委員会を立ち上げ、徹底した調査を行いたいと考えております。

職員に対しましては、私の基本姿勢であります情報の共有化、コミュニケーション、現場主義を根底に置き、明るい職場の中で報告・連絡・相談を徹底し町民の皆様から信頼される組織力が発揮できる職場を目指してまいります。

開会にあたり、諸議案の説明に先立ちまして諸般の事項についてご報告申し上げます。

株式会社三協につきましては、4月13日に竣工式が行われ、5月16日に初出荷がありました。

現在、静岡から移住した工場長に加え、研修から戻ってきた島根県出身社員等12人の、計13人が島根川本工場に勤務しており、静岡で研修中の社員は11人となっています。町内の各業界も相乗効果で活性化していくことを期待しています。

次に、職場の業務改善について申し上げます。

業務の多様化、複雑化により事務負担が急増している中、現場のリーダーである課長クラスの職員を主な対象として、

職場の業務改善を目的とした研修を年間を通じて実施します。この研修では、管理職のマネジメント能力を高め、具体的改善策と実行計画の作成を通して、仕事の見える化で担当職務分掌の管理の徹底を図ってまいります。

平成29年度の予算執行は、5月31日をもって出納を閉鎖いたしましたので、決算見込額についてご報告申し上げます。

事業の成果や決算数値など詳細につきましては、9月定例会において、あらためてご報告することとし、今回は決算見込額の概要についてご説明させていただきます。

はじめに、一般会計の決算見込みについてであります。歳入41億4,999万5千円に対しまして、歳出39億5,987万3千円となり、差引であります形式収支が1億9,012万2千円となっております。

このうち、町道三原古市線整備事業や三江線代替交通導入事業等の翌年度への繰越財源1億4,703万8千円を引いた4,308万4千円が、実質的な余剰金として、30年度への繰越金となると見込んでおります。

なお、29年度末の基金残高は20億8,445万9千円で、地方債残高は44億2,570万8千円となる見込みであります。

特別会計の決算見込みにつきましては、国民健康保険

特別会計で157万円、簡易水道事業特別会計で46万3千円、後期高齢者医療特別会計で3万円の余剰金が見込まれております。

このほか、住宅新築資金、農業集落排水処理事業の特別会計では、歳入歳出差引ゼロとなっております。

それでは、町行政の主な動きにつきまして、順次ご報告申し上げます。

まず、

「特色を活かした活力あふれる産業のまち」に関する動きについてであります。

(米の生産振興)

はじめに、米の生産振興について申し上げます。

今年度からの国の生産調整の廃止を受けて、生産者が米の生産調整を推進する中で、本町の平成30年産米の作付面積は、割当面積142.34ヘクタールに対し、141.03ヘクタールになったものと見込まれます。

品種は「コシヒカリ」が中心となっておりますが、需要と結びついた「結びつき米」である「ハーブ米きぬむす

め」は3.43ヘクタールとなっています。また、高温登熟性に優れ良品質米になりやすいと言われる「つや姫」が5.68ヘクタールとなっております。

#### (新規担い手の確保)

次に、新規担い手の確保について申し上げます。

今年5月から地域おこし協力隊1人が、新規就農を目指して篤農家で水稻と野菜の生産技術等の習得の研修を開始したところでもあります。

引き続き、就農相談会の参加やかわもと暮らし情報センター等と連携し、新規就農を掘り起こしエゴマや野菜生産の農業体験を実施してまいります。

#### (畜産振興)

次に、畜産振興について申し上げます。

市場の子牛価格はピーク時に比べやや下がってはおりますが、高水準を維持しながら推移しています。本県においても、4月の平均価格は1頭当たり75万円台で、当面、高値が続くと思われれます。

今後も安定して子牛市場に上場できるよう、繁殖農家での飼養頭数維持拡大と後継者づくりに関係機関をあげて取り組んでいます。また、遊休農地を活用した水田放牧の可能性を検討しています。

### (エゴマの生産振興)

次に、エゴマの生産振興について申し上げます。

平成30年度の作付け見込みは、5月末現在、71件、21.46ヘクタールで、このうち補助金申請予定は66件、21.40ヘクタールとなっており、前年度より約1ヘクタールの増加となっています。

初めて栽培に取り組む方には、栽培講習会をはじめ、町エゴマ振興協議会で作成した「エゴマ栽培ごよみ」を活用してまいります。

### (6次産業化)

次に、6次産業化について申し上げます。

平成29年5月から稼働した鴨処理加工施設では、これまでに月平均200羽程度の処理が行われております。エゴマ鴨の飼育においても、今年5月からふるさと島根定住財団の産業体験制度を活用し研修生2人を受け入れ、飼育の拡大を進めております。

「三原の郷<sup>さと</sup>どぶろく特区」では、どぶろく商品が完成し、商品名を「三原の郷どぶろく<sup>いっしろ</sup>五砦」として、4月より販売されております。どぶろく製造は、年間4回行われる計画であり、新たな特産につながるよう支援してまいります。

(観光振興)

次に、観光振興について申し上げます。

真夏の一大イベント「2018ええなあまつりかわもと」を7月28日に中央大通りを主会場として開催することが決定いたしました。

2500発の花火大会をはじめ、ステージイベントでは神楽、江川太鼓、よさこい踊り、島根中央高校吹奏楽部など、今年も町内を中心に多くの団体の出演を予定しています。

4月25日には石見川本駅舎で、「観光素材掘り起こしワークショップ」を観光協会の主催で開催しました。三江線が町にもたらした変化や持続的な交流人口拡大に向けた議論を深め、今後の観光振興を考えるきっかけとなりました。

また、観光協会の会員数は昨年から増加し、飲食店を中心に27団体となりました。今年度はホームページやパンフレットのリニューアル、フェイスブック、インスタグラムといったSNSを活用した情報発信の強化や、石見川本駅のイベント開催や町案内人の育成、世界遺産石見銀山や江の川沿線の広域観光振興に取り組み、交流人口の拡大を目指します。

田舎ツーリズムの宿泊体験につきましては、今年6月15日に「住宅宿泊事業法」が施行されることに伴い、現在登録いただいている方の意向を確認しながら、事業継続のための支援を行ってまいります。食事や農業体験等の「日帰

り型のツーリズム」については、観光協会を中心に受け入れ実践者の育成と情報発信に取り組んでまいります。

また、6月2日に誘致企業の株式会社三協日の出工場にて開催された第14回ほたるまつりに参加し、特産品であるエゴマや、カモ商品の販売とPRを行いました。

#### (商工業振興)

次に、商工業の振興について申し上げます。

事業承継問題につきましては、川本町事業承継推進協議会と連携し、事業承継や新たな起業の促進、空き店舗対策に取り組んでまいります。

特に今年度は、「弓市ビジネスチャレンジコンペティション」と題し、来年度開業を目指した参加者を6月から募集しています。

つづいて、

「便利で快適に暮らせる基盤が整うまち」に関する動きについてであります。

#### (定住促進住宅整備)

はじめに、定住促進住宅整備について申し上げます。

平成29年度に引き続き、多田地区に4棟の建築を予定

しており、かわもと暮らし情報センターの移住者支援との連携により人口社会増につながる取り組みを継続してまいります。

また、住まいづくり応援事業として取り組んでいる各事業につきましては、実績に応じて制度を充実させており、定住を支える住環境の整備を推進しています。

### (道路整備)

次に、道路整備について申し上げます。

県道事業において、一般県道別府川本線日向地内の道路災害復旧工事につきましては、長期間、片側交互通行でご迷惑をおかけしておりますが、今後災害査定を受け、工事完了は平成31年3月末の予定であります。

主要地方道仁摩邑南線久座仁地内の法面復旧工事につきましては、予算が確保され次第、工事に入る予定となっておりますが、現在のところ工事完了は未定であります。

主要地方道川本波多線改良事業に伴う多田地区から美郷町港地区のトンネル工事につきましては、8月からトンネル工事が開始される予定であります。また、川本大橋川本側の歩道整備につきましては、用地買収が行われる予定であります。

町道事業につきましては、中倉日向線道路改良工事を継続して実施し、企業誘致に関連した三原古市線道路改良工

事については、平成32年3月完成を目指し、工事を進めております。

#### (簡易水道)

次に、簡易水道について申し上げます。

国の交付金を活用して、老朽化している配水管の更新及び浄水施設の整備を実施しております。

因原地区の配水池新設及び送配水管工事を3月末に完成し、現在新しい施設から給水を行っております。

今年度の事業につきましては、川本大橋の配水管添架工事並びに因原浄水場の施設整備及び紫外線殺菌装置の整備工事を7月中旬に発注予定であります。

#### (水防災・治水対策)

次に、水防災・治水対策について申し上げます。

町の水防・治水対策の基本となる「江の川水系河川整備計画」により、本年度より瀬尻・久料谷地区水防災事業が事業化となりました。平成30年度は測量及び調査が行われる予定であります。谷戸・谷・日向地区の治水対策等も本計画に盛り込まれておりますので、早期着工されるよう国交省には引き続き強く要望しています。

つづいて、

「安心して暮らしやすい生活環境のまち」に関する動きについてであります。

(まげなねっとかわもと)

はじめに、まげなねっとかわもとについて申し上げます。

有線テレビ放送では、医療・健康情報の提供番組や語学指導助手による英語番組など、本町ならではの番組を放送しております。今年度は、新たな取り組みとして神楽や江川太鼓など地域の伝統文化を映像化し保存することを意識した番組づくりに取り組むこととしております。

(ごみの処理)

次に、ごみの処理について申し上げます。

邑智クリーンセンターへの平成29年度ごみ搬入量は4,907トンで、このうち川本町分は、1,086トンとなりました。特に、家庭系の可燃・資源・不燃ごみが減ったことから、前年度に比べ30トン減少しております。

(防災)

次に、防災について申し上げます。

5月13日に国交省主催の江の川下流総合水防演習が江津市において、約1100人が参加して行われました。

本町から参加した消防団40人は、実際の水防活動と同様に土のうづくりから各工法完成まで一連の訓練を実施しました。

また、出水情報提供訓練では国交省浜田河川国道事務所長との間で、ホットラインによる伝達訓練も行い、緊急時の連絡体制を確認しました。

当日は、本町でもこの総合水防演習に合わせて配信された洪水情報の緊急速報メールを活用し、3自治会の参加のもと災害避難訓練を実施しました。

今後の訓練としましては、6月10日と24日及び7月22日に、それぞれの地区で起こりやすい災害を想定した災害避難訓練を行うこととしておりますが、参加自治会は残念ながら10自治会にとどまっています。

これからもこのような訓練を繰り返し行い、町民の防災意識の高揚に努めるとともに防災体制の強化を図ってまいります。

#### (地すべり対策)

次に、地すべり対策について申し上げます。

現在、三原地区を川本第2期地区として対策工事が進められています。また、昨年度より行っている地すべり防止施設の長寿命化を図る修繕工事も、今年度実施される予定であります。

つづいて、

「みんなが健康で安心にいきいきと暮らせるまち」に関する動きについてであります。

#### (地域包括ケアシステムの推進)

はじめに、地域包括ケアシステムの推進について申し上げます。

最後まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に向け取り組んでいるところです。その一環として、住民による助け合いの仕組みづくりの拡大をめざし、県内の先進地域の視察を行ったり、それを踏まえたワークショップを開催するなどの取り組みを行っております。今後も、関係機関等と連携し、地域全体で高齢者を見守り支えていく体制の整備を進めることとしております。

#### (介護保険)

次に、介護保険について申し上げます。

介護保険につきましては、今年度から平成32年度までの第7期事業計画がスタートしました。この計画の中では、介護サービスの見込み量と介護保険料の改定を合わせて協議されており、第7期の介護保険料月額基準額は、第6期と同額に定められました。

(国民健康保険)

次に、国民健康保険について申し上げます。

本町の国民健康保険一人あたりの療養給付費につきましては、一部高額な医療が発生したこともあり、非常に高い状況となっておりますが、高額医療費共同事業などにより、町が負担する療養給付費については例年程度の負担となっております。

30年度の国民健康保険の税率については、前年度医療費の状況や前年度の決算見込、国保広域化に合わせた国からの財政支援、島根県への負担金の状況などを総合的に判断し、引き下げを行うこととしました。

これに必要な条例改正案を今定例会に上程しておりますので、ご審議の程よろしくお願い申し上げます。

つづいて、

**「夢や希望をはぐくむ教育・文化のまち」**に関する動きについてであります。

(学校教育)

はじめに、学校教育について申し上げます。

4月10日に川本小学校及び川本中学校の入学式が行われました。小学校では22人の新入生を迎え、全校児童数

は121人8学級、中学校では17人の新入生を迎え、全校生徒数は58人4学級となっております。児童・生徒が確かな学力と豊かな心、健やかな体をバランスよく育むことができるよう教育振興に努めてまいります。

4月17日には「全国学力・学習状況調査」が実施され、全国で29,709校が参加しました。本町でも川本小学校6年生と川本中学校3年生が参加し、今後はこの結果と傾向を分析し、児童・生徒の一層の学力向上に取り組んでまいります。

#### (社会教育)

次に、社会教育について申し上げます。

中央公民館では、川本町社会福祉協議会と共催で、50歳以上を対象に、健康に関する講演会や体験活動を通して、新たな気付きや仲間づくりを目的として「悠々大学」を毎月1回、計10回講座として実施しています。また、夏休みを利用して、昨年に引き続き小学4年生から6年生を対象に「サマーキャンプ」を予定しており、町内全体をフィールドとして自然体験を中心に計画を進めています。

西公民館では、例年実施している「鮭の観察会」や「学習発表会」に、地域だけでなく、高校生や若者を巻き込んだ内容で計画をしております。

北公民館では、4月28日に「たけのこほりとまるやきクッキング」を実施し、親子45人の参加がありました。

また、今年度も「三原の郷<sup>ごう</sup> 未来塾」と協働して、町民の生活・文化の向上や健康づくり、町民相互のつながりづくりを目的として、月2回「公民館サロン」を実施しています。

### (文化振興)

次に、文化振興について申し上げます。

7月8日、悠邑ふるさと会館大ホールで、NHK教育テレビで放送中の「おかあさんといっしょ」の1コーナーである、人形劇「ガラピコぷ〜小劇場」が開催されます。

5月21日からNHKのホームページのみで参加申し込みが始まっていますので、多くの町民の皆様には是非お申込みいただきたいと思えます。

今年3月4日にアンサンブルコンサートを公演した、オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラの川本公演が平成31年1月27日に開催されることとなりました。

指揮者は宇宙戦艦ヤマトの曲を作曲された宮川泰<sup>みやがわひろし</sup>さんを父に持つ宮川彬良<sup>みやがわあきら</sup>さんです。本物の音楽を聴くことのできるまたとない機会ですので、皆様お誘いあわせの上、ご来場ください。

つづいて、

「人と人が支え合う協働のまち」に関する動きについてであります。

#### (島根中央高校魅力化)

はじめに、島根中央高校魅力化について申し上げます。

昨年度は学校創立10周年を迎え、町民の皆様には「まち親制度」へのご協力をはじめ、様々なご支援をいただいております。誠にありがとうございます。

本町では、高校魅力化コーディネーターを配置し、高校の特色ある魅力化に務め、より多くの生徒が島根中央高校を目指してくれるよう、今年も既に関西方面での募集活動を高校と展開しております。

#### (島根中央高校支援)

次に、島根中央高校支援について申し上げます。

島根中央高校の今年の入学生は81人で、この内、県外からの入学は28人で、全生徒数241人の内81人が県外生徒となっています。昨年度改修した学習交流センターには、25人の新入生が入寮し、総数が45人となっております。また、江風寮の寮生も含めると全校生の半分以上を超える124人が寮に入っている状況であります。

一方で、4月から三江線代替交通として運行が開始され

たバスの運行ダイヤは、島根中央高校の通学を最優先に確保するとともに、定期券購入の補助を行っています。

今後も島根中央高校の魅力の一つとして、町外から入学する生徒が安心して生活できる施設整備等に一層取り組んでまいります。

#### (弓市地区魅力化検討委員会)

次に、弓市地区魅力化検討委員会について申し上げます。

弓市地区の、交流人口の循環と関係人口の拡大を図るために設置した「弓市地区魅力化検討委員会」の第3回目の会合を5月に開催いたしました。

今後は、各課の課長補佐によりコーディネートチームを編成し、構想策定にあたっては6月から開催する課題ごとのワーキング部会に多くの町民の皆様に参加いただき、オール川本で議論を深めボトムアップで進めてまいります。

地区の魅力が、他との差別化につながり、島根中央高校に入学を希望する多くの生徒への魅力として写るものと考えことから「高校生も魅力を感じるまち」という視点も大切にし、地区の活性化を図りたいと考えております。

#### (テレワーク)

次に、テレワークについて申し上げます。

3月20日に三島の旧音楽研修棟に開所されたテレワー

クスペースでは、川本町内の子育て中の方や、大田市など近隣からの登録テレワーカー12人が業務を行っております。開所後徐々にではありますが、都市部からの案件も受注しており、これらの業務を行う傍ら登録テレワーカーのスキルアップのための研修も行っています。

### (都市交流)

次に、都市交流について申し上げます。

4月には、総勢50名が参加された東京川本会が開催されました。会では東京在住で映像会社に勤務しておられるきのしたようすけ木下陽介氏が制作された「三江線ラストラン、石見川本駅の物語」が上映され、参加者からは懐かしむ声と惜しむ声の双方がありましたが、思い出話にも賑やかな花が咲きました。

6月には関西川本会が開催され、10月には広島川本会が開催される予定であります。引き続き都市部に在住される本町出身者との交流・親睦を深めて参ります。

### (ふるさと納税)

次に、ふるさと納税について申し上げます。

平成29年度の決算は前年比61万円、104件増の963万6千円、299件でございました。今年度は返礼品のパンフレットを作成して、多くの方に共感して寄附をいただけるよう取り組んでいくこととしております。

(窓口おもてなし)

次に、窓口おもてなしについて申し上げます。

5月末現在、転入48件、出生2件の届出があり、窓口にて記念の品をお渡ししました。

今年度は新たに、江の川や雲海、山桜、イズモコバイモ、エゴマなど、絶景や特産などを絵葉書にした「川本魅力コレクションカード」8種類24枚入りを作製し、転入された方へお渡ししております。引越しの便りに併せ、本町の魅力を写真で伝えることができると好評をいただいております。

(公聴・広報)

次に、公聴・広報について申し上げます。

毎年開催しております「まちづくり意見交換会」を、今年度も6月20日から各公民館毎3会場で行うこととしております。この会は、町民の皆様からご意見やご要望を直接伺うことのできる大切な場と考えておりますので、多くの皆様に参加していただきたいと考えております。

また、ホームページや告知放送などを通じ情報発信に努めるとともに、様々な機会を活用し公聴にも努めることとしております。

(提出議案等)

今定例会に提案しました案件は、条例案件2件、予算案件3件、その他案件2件であります。

後ほど、担当課長から、これらの説明をさせますので、慎重なご審議をいただき、適切な議決を賜りますようお願い申し上げます。行政報告とさせていただきます。